令和6年度　江戸川区立東小岩学校　学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	◎よく考える子 〇思いやりのある子 〇たくましい子		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	「夢や希望を育てる学び舎としての楽校」 ・子ども自身の夢や希望、子どもにかける家庭や地域の夢や希望を育てる学校 ・子どもにとって通うのが楽しい楽校（学校） ・「厳しく教え　温かく育てる」「信じて接し　愛して育てる」
前年度までの本校の現状	成果	・全学年で外部人材との協働学習を実施し、幅広い人材から学ぶことで、子どもたちの興味・関心を高めることができた。 ・「本を活用した調べる学習コンクール」へ、全ての児童が参加し、本を活用して調べることの良さを体験的に理解する機会を確保できた。	課題	・行事のもち方や集会の実施など、子どもたち同士の関わり合いの機会をより充実させていくこと。 ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の在り方。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A～D)		「中間」学校関係者評価(A～D)		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	「誰一人取り残さないための学力向上に向けたアクションプラン」の実施・充実	ベーシックドリル診断テスト正答率70%以上	A	A	A	１学期末の診断テストで平均正答率が70%を上回った。 次回のテストに向けて、過去問題と個別の診断ファイルを活用し、正答率の向上に取り組んでいく。	A	タブレット端末も活用した家庭学習で、一人一人に合わせた取り組みを期待する。	A	６年生の全国学力・学習状況調査では、国語、算数どちらも区の平均を上回った。	A	子どもたちの意欲ある学習の成果が得られてよかった。誰一人取り残さないための取組は重要なことだと思う。	校内研究を国語で実施し「誰一人取り残さない」授業改善に取り組む。
		教員の専門性を活かした教科担任制の実施	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり新たな考え方に気付いたりすることができている」の肯定的回答８０%以上。	B	A	B	教科担任制を実施することで複数の教員で児童の様子を見ることができている。	B	友達と話し合って自分の考えをまとめることでコミュニケーションの力をさらに伸ばしてほしい。	A	約９割の児童が「学級の友達との間で話し合う活動を　通じて、自分の考えを深めたり新たな考え方に気付いたりすることができている」という質問の肯定的回答をした。	A	多くの先生に関わっていただくのは大切なこと。今後も教科担任制の充実ある活動を期待する。話し合う活動はぜひ続けてほしい。	次年度も専科・教科担任制を組み合わせて、専門性を生かしつつ、多くの教員で児童と関わる体制を継続する。
	読書科の更なる充実	全学年で12時間を本を活用した調べ学習に設定し、探究的な学習を行い、「本を活用した調べる学習コンクール」へ応募する。	「本を活用した調べる学習コンクール」参加率100%	B	B	B	9月末の作品完成に向けて、全学年が各学年に合ったテーマで調べ学習に取り組むことができている。	B	探究的な学習を通して児童の知的好奇心が高まることを願っている。たくさん本を読んで読書の楽しさに気付いてほしい。	A	「本を活用した調べる学習コンクール」に取り組むことで、ただ読むだけでなく物事を知るために本を活用できることを体験的に理解する機会になった。	A	本を手に取ってページをめくって発見する楽しさや喜びを感じてもらいたい。新しい取組として図書ボランティアの読み聞かせが始まったことは、本と向き合う機会の増加につながっている。	「調べる学習コンクール」の取組は継続する。
体力の向上	「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実	・「江戸川っ子なわ跳び出前授業」の実施 ・アスリートを招いての出前授業の実施	「運動することが楽しいですか？」に対する肯定的評価８０%以上	B	B	B	なわとびウィークの取り組みでは、一人一人が目標設定をして、なわとびにすすんで取り組むことができた。	B	なわとびに限らず、いろいろな運動に楽しく取り組める子どもたちになってほしい。	A	「運動やスポーツをすることが好きですか？」という質問に９割以上の児童が肯定的な回答をした。アスリートを招いての授業で児童の運動意欲が高まっていると感じる。	B	運動する楽しさを感じながら取り組めることは子どもの可能性を伸ばしてくれると思う。縄跳びだけでなく走る活動もあれば良いと思う。	なわとびの活動に加え、休み時間に日常的に取り組める運動の場を設置するなどの工夫を継続していく。
	個に応じた体力向上のための取り組みの実施・充実	・学期に1回のなわ跳び週間の設定 ・校内研修会の実施	80%以上の児童が江戸川区なわ跳びコンテストに参加	A	B	A	90%以上の児童が１学期のなわ跳びコンテストに参加した。教員の研修会を２学期に実施する予定。	B	一人一人目標があると意欲が高まってよいと思う自分のペースで楽しみながら取り組んでほしい。	B	なわとびカードの活用や、異学年で交流する「なかよしなわとび」の活動で、苦手な児童も友達と関わり合いながら楽しんでなわとびに取り組めた。 教員の研修を３回実施した。	B	体力向上に縄跳びは最適だと思う。縄跳びの取組は地域としても嬉しく思う。日頃のちょっとした時間にできる縄跳びを通じ、向上心を養っていけることを望む。	高学年の意欲を高める工夫を考えたい。
共生社会の実現に向けた教育の推進	ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	特別支援教育コーディネーターが中心になり管理職、心理士、SC、巡回指導教員の連携のもと、特別支援教育を進める。	特別支援打合せを毎月１回実施する。 特別支援研修会を年３回実施する。	B	B	B	当初は特別支援打ち合わせに十分な時間が確保できなかったので、打ち合わせの順番を入れ替え、時間を確保した。 校内委員会を3回開催し、支援の必要な児童の保護者に意向を伝えることができた。	B	これからも現在の取り組みを継続してほしい。	B	９月以降、打ち合わせの時間を十分確保でき、支援の必要な児童の共有ができた。 特別支援コーディネーターを中心に研修会を実施した。来年度は講師を招いての研修会を計画したい。	B	様々な立場の方々にご協力いただきながら、より良い支援ができるようになるといいと思う。	講師を招いて教職員向けの研修会を実施する。
不登校・いじめ対応の充実	豊かな心の育成	いじめアンケートを実施し、早期発見と早期解決を図る。	週に１回、全職員からの報告を行う。 各学期に１回いじめアンケートを行い、いじめによる不登校を０にする。	B	B	B	いじめアンケートを活用することで、早期対応、早期解決につなげることができた。	B	学校に相談しやすい環境をこれからもつくっていってほしい。	B	教職員で毎週情報を共有し、早期対応、早期解決につなげた。	B	子どもたちが一人で抱え込まない環境を今後も整えていってほしい。	早期発見、早期対応をするための校内体制を再度全教職員で確認する。
	教育相談の強化	関係機関との連携をとって、児童の健全育成を行う。（児童相談所、小岩警察署、こいわ学校サポート教室等）	不登校児童とのＳＣ、ＳＳＷ連携率100%	B	B	B	共通理解の時間を設けることで、学校全体としてサポート体制を整えることができた。	B	様々な関係機関と連携を取りながら進められていることは安心である。	B	各関係機関と連携を図りながら対応した。	A	今後もより良い連携の方を考えていってほしい。	ＳＣと連携した相談体制の継続と、関係機関との連携を継続する。
	hypaer-QUの活用	QUテストの児童の実態把握に基づいた指導の推進	年に1回校内でQU研修会を実施	B	B	B	QUを活用することで、児童のクラス内での状況を把握し、対応につなげることができた。	B	子どもたちの様子をいつもよく見て対応できている。わずかな変化も見逃さず対応してほしい。	B	QUを活用し、児童の内面的な実態を把握できたことで、個に応じた対応策を効果的に講じることができた。	B	表面的にはわからない内的な部分をＱＵテストで補うことはよいことだと思う。	L-Gateの活用を推進する。
地域社会に開かれた学校（園）の実現	学校（園）ホームページの充実等	学校ホームページにて情報を発信し、保護者、地域との連携を図る。	週１回以上、学校ホームページの更新を行う。	A	A	A	校務分掌や各学年の担当ごとに、学校行事や学習の様子をホームページで発信することができた。（１学期終了時78回更新）	A	ＨＰの更新が多くあると、学校の様子をよく知ることができる。今後も積極的な発信を希望する。	B	ホームページの更新を週平均４回更新し、学校の様子を地域や保護者に伝えることができた。	A	HPから学校の様子を発信し、東小岩小学校の良さを伝えてほしい。頻繁に更新され、学校の様子がよく分かった。	学校ホームページの更新を今後も継続して実施する。
	学校関係者評価の充実	学校公開時にアンケートを実施し、授業改善につなげる。 学校評議員会で学校の取り組みへの評価、検討を行う。	保護者アンケートの肯定的意見を８０%以上にする。	B	A	B	学校公開や運動会後のアンケートでは多くの肯定的意見をいただいている。	A	今後も学校・地域・保護者で協力してよりよい学校をつくっていきたい。	B	保護者アンケートの全ての項目で、肯定的意見が８０%以上であった。	A	保護者の方からの肯定的な意見が多いのは学校の良い雰囲気につながるものと思う。	学校評価を適切に活用し、教育活動の改善を進める。学校評議員会で、学校の様子について確認・評価をしていただく。
特色ある教育の展開	「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	「学校における働き方改革プラン」に基づき、学校業務の適正化を行う。	月の時間外勤務が４５時間を超える教員を０にする。	B	B	B	５月～６月に、１時間程度の超過があった教員が２名いた。今後も学校業務の適正化を継続する。	B	今後も健康に留意して、教育活動にあたっていただきたい。	B	２学期以降、月の時間外勤務が４５時間を超える教員はいなかった。 SSSを有効に活用したり、学年で仕事を分担したりすることで、効率よく仕事を行うことができた。	B	先生方には、心身共に健康で毎日子どもたちと有意義な時間を過ごしてほしい。	働きやすいように職場環境を整えていく。時間外勤務時間が長時間にならないよう全教職員が働き方改革の意識をもつ。
	児童が自ら進んで挨拶できるようにする指導の充実	地域と連携した「あいさつ標語コンクール」に取り組み、意識を高める。 日頃から教職員が率先して挨拶を行い範を示すことで児童の意識を高める。	あいさつ標語の作成に、全ての児童が参加する。 児童アンケートで、「すすんで挨拶をすることができた」という肯定的な回答率を８０%以上にする。	B	B	B	今年度も地域の「あいさつ標語コンクール」に全ての児童が参加した。	A	自然とあいさつができる子どもたちが増えるとうれしい。お互いが気持ちよくなれる。	B	教員が手本となってあいさつすることで、自然とあいさつができる児童が増えてきている。 保護者アンケートで「お子さんはきちんとあいさつをしていると思いますか」の項目で80%以上が肯定的な評価であった。	B	特に毎朝元気に挨拶ができる子どもたちが増えてくれることを願う。	地域に根ざした人づくりのため、「あいさつ標語コンクール」「街角ギャラリー」の取り組みを今後も継続・発展させる。
	＜キャリア教育の充実＞ ・ゲストティーチャーや外部人材を活用した学習の推進	ゲストティーチャーや外部人材を招いたり、オンラインを活用したりした出前授業を実施する。	ゲストティーチャーや外部人材を活用した出前授業を全学年で年１回以上実施する。	B	A	B	１学期は租税教室（６年）や落語教室（４年）を実施した。本格的な実施は２学期なので、準備を進める。	A	ゲストティチャーの活用は、専門的な技や知識に直接触れることができる良い機会なので積極的に行ってほしい。	A	全学年で複数回ゲストティーチャーや外部人材による出前授業を実施した。	A	今後もゲストティーチャーによって活気ある授業を子どもたちに体験してほしい。	カリキュラムマネジメントの観点で内容を精選し、外部人材を活用した出前授業を今後も継続する。